

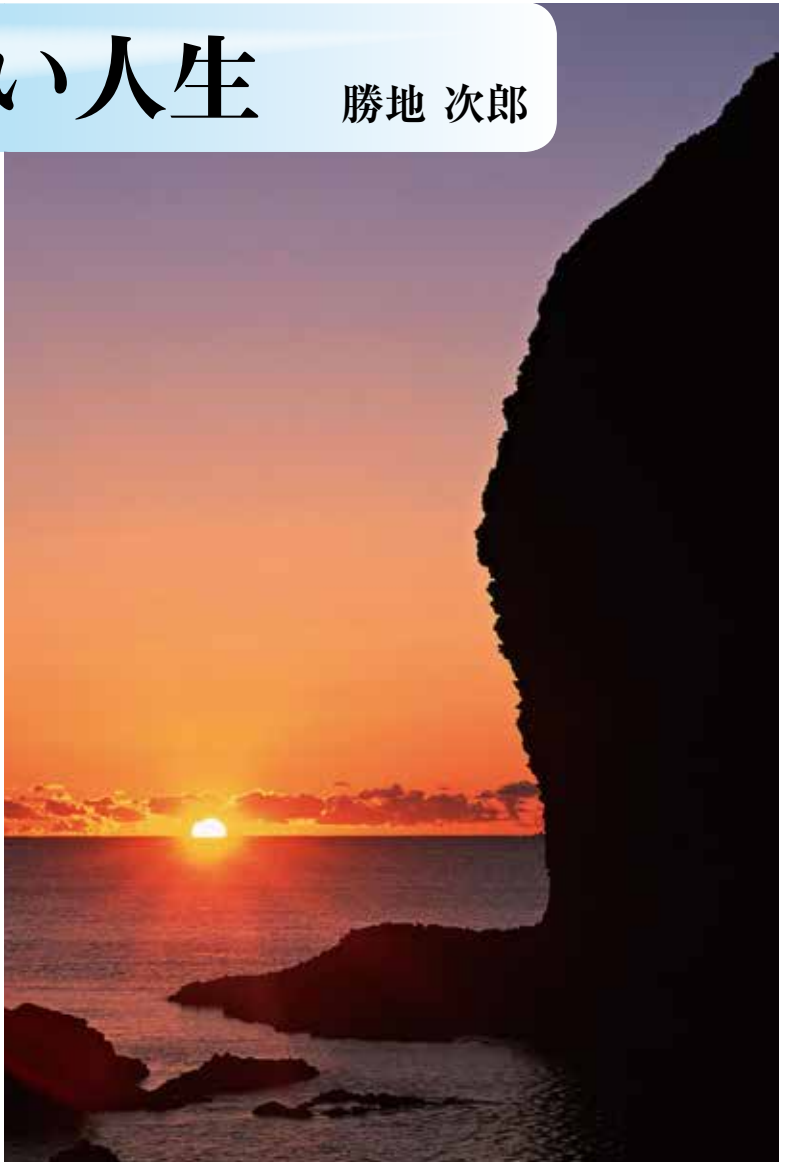


Good News for Japan

とぎのこえ

新しい年 新しい人生

勝地 次郎



「初尽くし」と言えば、元旦は初日の出、二日は初荷、書初め、初夢を挙げる事ができるでしょう。誰でも、年の初めには、新たな思いで一年を過ごしたいと願います。

また、初夢と言えば、「一富士、二鷹、三茄子」を思い起こす人もいますでしょう。この由来には諸説ありますが、晩年、静岡に居住した徳川家康が好んだものが、富士山、鷹、茄子であったことから生まれた、という説があるそうです。天下人であった家康が好んだもの

を夢で見ることは吉兆である、という思いが当時の人人にはあったのでしょう。

あなたは、今年、何を夢見ていますか？

「私には夢がある」と語った人がいました。非暴力主義の人種差別撤廃運動に生涯を献げたマーティン・ルーサー・キング牧師です。

「私には夢がある。いつの日かジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫と、かつての奴隷所有者の子孫が、兄弟愛のテー

ブルに仲良く座ることができようになる、という夢が……。」このキング牧師の演説は、肌の色の違いの故に、いわれなき苦しみを強いられてきた人々の心を躍らせ、夢見ることが可能にした名演説でありました。

夢―それは古いものが過ぎ去り、新しいものが来ることを待ち望むことであるとも言えるでしょう。キリスト教初期の大伝道者パウロは、こう言っています。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創

造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリントの信徒への手紙一 5章 17節)

これは、パウロ自身が、自らの人生で体験したことでした。彼は、イエスを救い主として信じる人々を認めることができず、強硬に彼らを迫害していました。しかし、人生のある日、復活されたイエスの愛に捕らえられ、イエスを救い主と信じる愛の使徒として生まれ変わっていったのです。

かつて、救世軍のある小隊(教会で、創立記念集会がおこなわれました。来賓の中に、厳格な顔立ちの近寄り難く思える牧師が出席されていました。しかし、その人は、愛餐会(食事会)の席上、こう切り出して、挨拶を始めたのです。

「エー、私が浅草で、まだ、よたつて(不なじみ)の様子)おりました時に……。」

入信後、日が浅かった私は、牧師の厳格な顔立ちと、「よたつていた」という言葉があまりにもアンバランスに思え、その人を驚きの眼で見つめたのを、今でも、はつきりと覚えています。

それは、イエス・キリストの救いによって、人は確かに、新しく生まれ、希望の人生を歩むことができるという発見でもありました。

イエス・キリストの愛に触れる時あなたも変わる！人生が変わるのです！キリストを信じる時、神の子とされ、神の導きを受けて、困難・試練を乗り越えていくことができるでしょう。

神は次のように約束されています。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であつて、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ書29章11節)

(エレミヤ書29章11節) 皆様にとつて今年が、この神の祝福を見いだす素晴らしい年となるように、心から祈ります。

(救世軍士官(伝道者・司令官)



謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

育った環境

私は、一九二〇(大正9)年生まれで、今九十五歳です。生家は、静岡県浜松市三方原(徳川家康と武田信玄が戦った古戦場)の開拓農家。五男三女の八人きょうだいの七番目で四男、祖父母を入れて、十二人の大家族でした。祖父は毎朝仏壇の前でお経を唱えており、門前の小僧、習わぬ経を読むので、私も一緒にお経を上げていました。

二十歳の時、召集されて南方のラバウルへ行きました。五年後の八月十五日、

〈信仰の体験談〉

神様は必ず
助けてくださる

お勝 かつ川 津中



2010年、90歳の誕生日に

終戦となり、日本には翌年の三月に引き揚げて来ました。三浦半島の浦賀に着き、

三万原に戻って来ました。マリヤに罹って三カ月ほど休養をとり、その後、

浜松市内にある会社に勤めました。そして、世話好きな伯父の紹介で見合いをし、

一九四七(昭和二十二年)三月、結婚しました。家内は三姉妹の長女だったので、

婿入りでした。

新しい家族

家内の実家も開拓農家で、会社とかなり離れた所になりました。そこから市内の

会社まで、交通の便が悪く、どうしても遅刻が多くなっ

てしまいました。すると、会社は私たちのために、会

社のそばに家を建ててくれたのです。そして家内は洋

裁ができたので、その家で洋裁店を開きました。

翌年、長女が生まれまし

た。一歳くらいになると、忙しい家内の目が届くよう

に、と陳列台の中か入り口の柱につないでおかれてい

た。その三年後に長男、そのさらに四年後に次女が生ま

れました。

救世軍との出会い

やがて、東海道新幹線ができるというので、都市計画により家を移転しなくてはならなくなりました。

そして、一九五六(昭和31年)四月、同じ浜松市内の、現在住んでいる所に転居しました。

その三年後の七月のことです。夕方、私の家の前を、

太鼓をたたいてチラシを配って歩く一団がありました。救世軍浜松小隊(教会にあ

たる)の信徒たちが集会の案内をしていたのでした。家内は、引越して来たばかりで、新しい環境になじめ

ず悩んでいた時だったので、夜におこなわれていた伝道集会に出席しました。ま

もなく、子どもたちも日曜学校に行くようになりました。

神様を求めて

私は四カ月ほど遅れて、家内に連れられて夜の集会に行きました。その頃は、キリスト教に慣れていない人や初めての人、求道中の人向けの伝道集会を、夜におこなっていたのです。十一月二十二日のその日、私が行った時はまだ時間が早

く、ほとんどの信徒さんは屋外でおこなう短い集会に出

ていました。出迎えてくれたのは、会館に残っていた年配の伝道者夫妻でした。

目は心の窓と言いますが、私はこの方たちを見て、へな

んと目の美しい、優しい方方だろう」と驚いたことを覚えて

います。

集会が始まると、信徒の方たちは次々と立ち、信仰の体験談を話しました。私

は人前で話などできなかった

ので、へなんと素晴らしい人たちがだ」と、ただただ驚嘆して

いました。その時の説教は覚えておりませんが、最後に、恵の座という祈りの場所

で、信徒の方に導かれて初めてお祈りをしました。

救いの体験

しばらくの間、夜の集会だけに出席していましたが、年明けの一九六〇(昭和35)年一月二十四日、准兵士(正式に救世軍の信徒になるための準備期間の呼び名)になりました。

准兵士になってから、日曜日の午前には聖別会と呼ぶ礼拝に、夜は伝道集会に必ず出席するようになりました。また、伝道集会の前におこなう屋外集会にも休まず出



1956年頃、家族と

をたく役目を仰せつかり、救世軍の歌に合わせて一生懸命たたきました。

また、毎日、一人だけで、聖書を読み、祈るよう導か

れました。これは信仰生活の基本で、とても大切なことであることを教えられ

ました。初めての祈りは恥ずかしくて布団の中でしまし

た。すると、今まで経験したことのない、安らぎ、心の平安をいただいたのです。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」

(使徒言行録16章31節) この聖書の言葉どおり、イエス様は私たち家族を救ってくださいました。と確信しました。

救われた後の変化

その年の五月八日、家内とそろって兵士(救世軍の正式な信徒)となりました。即ちギャンブル、酒、タバコをやめました。また、家内と二人、救世軍の伝道機関紙

創立者 ウイリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp>



世界をみつめて

〈アメリカ〉1つのレッド・ケトルに50万ドルの献金

昨年末、全世界の救世軍で街頭募金運動(日本の社会鍋募金運動にあたる)がなされました。アメリカでは、毎年、レッド・ケトルとして、大規模なイベントによる呼びかけに始まり、街頭でベルや楽器を持った奉仕者が献金を募っています。



昨年の開始間もない11月28日、ミネソタ州のある雑貨店の前のケトルに、50万ドル(約6,000万円)の小切手が入られました。献金した夫婦は、若い頃、貧しさの中で雑貨店の売れ残り品に頼る生活をしてきたとのこと。今は他の人のためにできることをしたいと、今回の献金に至りました。また、第一次世界大戦で従軍した父が、「救世軍の提供したドーナツとコーヒーが戦地での慰めになっていた」と言っていたことが、救世軍に対する信頼につながっていると話しているそうです。



〈日本〉各地の被災地継続支援

●東日本大震災被災地復興支援

2011年の大震災以来、各地への支援とともに訪問を継続して、聞き取り調査を重ねています。12月2日には、岩手県大船渡市にある非営利型一般社団法人「かたつむり」(就労継続支援B型事業所)でクリスマス会を開催しました。



●広島県大規模土砂災害被災者支援

2014年の土砂災害発生直後から支援を継続してきた広島市可部東6丁目新建地区で、11月14日、一足早いクリスマスコンサートをおこないました。また、12月には子どもたちにクリスマスプレゼントを届けました。

●関東・東北豪雨被災者支援

昨年の洪水以来、茨城県常総市での支援を継続しています。11月25日には他団体と協力し、ボランティアサポートセンターにおいて350食の給食をおこないました。



メインに、茨城県と宮城県の食材を使い、両県から一文字を取って名付けた「城 城 井」を提供しました。寒さの訪れを感じる日でしたが、屋内での温かい食事のひと時となりました。

社会鍋募金へのご協力、ありがとうございました

昨年12月、全国主要都市でおこなわれました。ご寄付くださった方々、またボランティアで奉仕してくださった方々に、心からの御礼を申し上げます。皆様から寄せられた寄付金は、各地の救世軍小隊を通して、様々な困難を覚えている方々や街頭生活者への支援、また国内外の災害被災者支援などに用いさせていただきます。

※「11月30日は社会鍋の日」として、一般社団法人 日本記念日協会に登録されました。(2015年11月20日付)



昨年、東京タワー正面玄関前でおこなわれた「救世軍クリスマス社会鍋コンサート」

2016年救世軍全国大会のお知らせ

- 〈主な集会〉
 - ◆10月21日(金) 救世軍チャリティーコンサート 東京オペラシティ コンサートホール 18:30 (東京:初台)
 - ◆10月22日(土) 公開集会 14:00
 - ◆10月23日(日) 大会聖別会(礼拝) 10:00 日本教育会館 一ツ橋ホール (東京:九段下)
- 集会にはどなたも参加できます
- お問い合わせは、救世軍本営 伝道事業部へ 03-3237-0881

救世軍とは

The Salvation Army



国際的なプロテスタントのキリスト教会で、聖書に示された唯一の神を信じています。そのモットーは、「心は神に手は人に」で、人々の必要に応えながら神の愛を伝え、物心両面からの救いを目指しています。

創立は一八六五年。英国のメソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブースが東ロンドンのスラム街で働きを始めた。

彼は、当時の社会の最下層にいる人々に神の愛を届けようと、温かい食べ物、清潔な衣類、教育、宿泊所などの提供をおこないました。そして、より多くの人

人や社会の必要に応えるため、統率力と機動力に富んだ軍隊の組織を取り入れて、全世界にその働きを広げていきました。

現在、百二十七の国と地域で救世軍の働きが進められていますが、どの国においても創立の精神は脈々と受け継がれています。街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、高齢者の介護、アルコール依存症者の更生支援、災害被災者の支援などを通して神の愛を届けています。また、国際的な協力体制の下、人身売買犠牲者支援や開発途上国の人々の自立支援の推進なども積極的におこなっています。

日本での働きは、一八九五年(明治28年)に、ブースによって派遣された土官(伝道者)たち

ちによって始められました。日本人最初の土官となったのは山室軍平で、だれにでもわかりやすい説教と著書で、キリスト教を広めました。そして、失業者への職業斡旋や免囚保護、廃娼運動の推進、結核療養所設立など、社会福祉医療面のパイオニアとして活動してきました。

現在は、四十四の小隊(教会にあたる、十二の分隊(伝道所にあたる、二つの病院(ホスピス併設)、二十の社会福祉施設)を通して働きを進めています。

今年の十月二十日〜二十三日、世界の救世軍の指導者アンドレ・コックス大将夫妻を迎えて、東京において、特別な集会とコンサートを開催します(左記参照。詳しくは後報)。ご期待ください。

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営

電話 東京(03)三三七〇八八一

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一

編集人 齋藤 恵子

印刷兼 代表者 勝地 次郎

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号一部五〇円(〒六〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒七〇円) 一年分(二七〇円)送料七五〇円 振替 〇〇一八〇五四四〇〇

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

定価

（この欄に通信文を書くとき第三種扱いになりません）